

あなたの農業経営をサポートします。

# アグリいしかい

石狩市農業総合支援センター通信  
第20号 2014年7月 発行



## 「いしかり塾、今年はにんじんをPR」

8月23・24日に行われる、「まるごとフェスタ」に出店予定のいしかり塾・天使大学サークル「北の食物研究所」はにんじんを使用したパンケーキを学生が試作し、この度試食会を行いました。

人・農地プラン話し合いで活用！！ 人と農地の問題解決に向け

# 農地中間管理機構

を活用しましょう！

農地中間機構は「信頼できる農地の中間的受け皿」です。  
機構を活用すれば、人・農地プランを作成・実行しやすくなります。

### 機構はこんな仕組みです

公的機関だから  
安心して貸せます。

農地を  
貸したい人

貸付け

農地中間管理機構  
(北海道の農業公社)

貸付け  
(転貸)

農地を  
借りたい人

機構に貸し付けた人に  
協力金が支払われます。

まとまった使いやすい  
農地が借りられます。

### こんな使い方ができます

リタイアするので農地を貸したいな！ と思ったら・・・

機構に農地を貸して下さい。  
お借りした農地は機構が担い手に転貸します。

利用権を交換して分散した農地をまとめたいな！ と思ったら・・・

関係者がそろって機構に農地を貸して下さい。  
機構が担い手の使いやすい形にまとめて転貸します。

### 地域ぐるみで活用しましょう

- 「人・農地プラン」の話し合いの中で機構を活用して地域内の農地利用の再編を進めましょう！
- 地域で機構にまとまった農地を貸しつくと、地域に協力金が支払われます。
- 青年就農給付金、農の雇用事業、スーパーL資金等の支援は、引き続き受けられます。

問い合わせ先 石狩市企画経済部農政課農政担当 72-3164

石狩市農業総合支援センター  
☎ (0133) 66-3345  
<http://www.ishikari-asc.jp/>

# 地域の担い手確保へ

## 「農業経験ゼロからの支援プログラム」スタートです

石狩市での就農を目指す研修生に対し、「農業経験ゼロからの支援プログラム」（新規就農研修プログラム）を地域と関係機関が一体となり実施することになりました。

6月5日に開催された新規就農者認定審査会において、支援センターからプログラムの内容の説明を行い、現地研修（ミニトマトの施設栽培）・集合研修・外部研修の計画が確認されました。現在、このプログラムにより2名が研修を行なっています。支援センターでは、定期的な現地巡回や研修生との意見交換などから実習を効果的に進めるためのサポートを引き続き実施していきます。



藤岡農場で研修中の千喜良（ちきら）さん



松本農場で研修中の遊佐さん

### 農業経験ゼロからの支援プログラム

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
営農技術習得研修	現地研修	苗ずらし	支柱立て	除草	除草				後片付け				除雪
		ハウス準備							圃場準備				鉢上げ
		定植準備							育苗準備				苗床管理
		定植							苗床準備				ハウス準備
	トンネル管理												
		現地検討会				現地検討会	現地検討会	現地検討会					
		整枝・誘引・摘葉											
			かん水・追肥										
			病害虫防除										
	子リ			播種					収穫	栽培	栽培	栽培	栽培
				移植					販売	販売	販売	販売	販売
集合研修(月1回)		野菜基礎研修	農村生活	野菜基礎研修	地域と農業	市場視察	気象経過と営農	直売所・共選場視察	気象経過と営農	野菜基礎研修	気象経過と営農	野菜基礎研修	気象経過と営農
		野菜基礎研修	農村生活	野菜基礎研修	地域と農業	市場視察	気象経過と営農	直売所・共選場視察	気象経過と営農	野菜基礎研修	気象経過と営農	野菜基礎研修	気象経過と営農
								土壌調査		土壌診断結果の活用	営農計画	農業経営	農地制度・農業者年金
地域研修		地域行事に参加											
外部研修		①道立農業大・新規参入者研修(農業機械・経営計画)											
		②石狩北部地区担い手フォーラム(石狩北部指導農業士会・農業士会主催)											
		③新規就農者研修会											
		④藤女子大との連携・・・野菜品質向上と加工品開発											

# ブロッコリー栽培ノウハウを学ぶ

支援センターでは、施設園芸（ミニトマト）を経営の主体として継続できる技術として、栽培体系の検討をしています。昨年は、「ブロッコリー残さ」と「もみ殻」を使い、土壌病原菌の密度低下と土壌の物理性改善が同時にできる方法を小池農場で実施しました。そのハウスでは定植したミニトマトが順調な生育をしています。



改善効果が期待できるミニトマトハウス

隣のハウスではブロッコリーが出荷時期を迎え、二十六年のエキスパート養成講座（六月十三日）がそのハウスで行われました。参加した十六名は、小池さんから「石狩市の皆さんにミニトマトを安心して食べていただくために、ブロッコリーが重要な役割をしています。」という説明に、参加者は農業の奥深さに感心していました。



ブロッコリーの大切さを説明

4月支援センター人事異動  
 事務局員 重田康男（前市農業委員会事務局長）  
 事務局員 白澤茂明（前北海道石狩農業改良普及センター石狩北部支所地域第二係長）

新規作物栽培の取り組みとして、圃場に「落花生」をは種しました。

# 種まき「落花生」に気持ちを込めて

は種作業には、NPO法人ひとまちつなぎ石狩が主催している「エキスパート養成講座」において、石狩農業の大切さを理解した二十五年度の卒業生十三名が参加しました。

今年度は、石狩市の砂丘未熟土に新規作物（マメ科）として導入可能性を実証します。また、生産された「落花生」は、消費者へのPR活動や、加工にも取り組みます。活動の成果は、農業現場で活用できるようにしていきたいと思えます。



慎重には種作業



は種方法の説明